

# 被災産地支援研修会報告書（築地市場）

日時：平成25年11月13日（水）  
 場所：いわき市地方卸売市場小名浜魚市場  
 参加者：62名  
 【築地市場 52名】  
 卸売業者 20名、仲卸業者 11名、魚商 15名、買参組合 6名  
 【大田市場 8名】  
 【足立市場 2名】

## 研修内容

### （1）講義

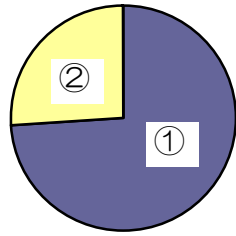
- ① 福島県における海産魚介類モニタリング結果の概要
- ② いわき地区における試験操業の取組について
- ③ いわき市における風評対策について
- ④ 小名浜漁港区における震災前後の水揚げ状況について
- ⑤ いわき地区における水産物の流通について

### （2）視察

- ① 小名浜港の状況
- ② 漁協検査室

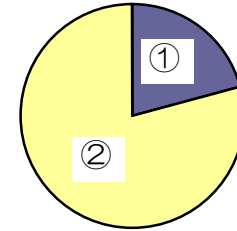
※ アンケート結果は、築地市場の参加者52名の回答のみを集計

問1 福島県が実施している検査体制について理解できましたか。



① よく理解できた	74.0%
② ほぼ理解できた	26.0%
③ あまり理解できなかった	0.0%

問3 研修に参加して、被災産地の水産物を安心して販売できると感じましたか。

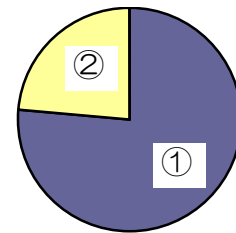


① 安心して販売できる	20.8%
② 販売できるが消費者の理解が必要	79.2%
③ あまり理解できなかった	0.0%

問5 研修に参加しての感想を聞かせてください。（自由意見）

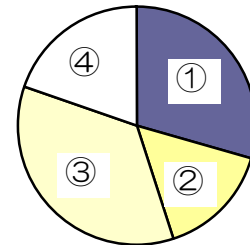
- ・行政、漁港、生産者が積極的に発信していくことが大事。
- ・卸売業者、仲卸業者では理解を得られているが、消費者の理解が得られていない現状がある。もっと、メディアを利用した宣伝活動で風評を無くしていくことが重要。
- ・生産、加工、販売、物流など、あらゆる面からの苦悩を報道等を使い、多くの人々に知らせることが必要。
- ・産地、流通、消費地が一体となって取り組んでいくことが必要。
- ・産地の状況を定期的に知らせてほしい。
- ・メディアの正しい報道が必要。
- ・なお一層のお客様に対する安全性のPRが必要。
- ・消費者の理解を得るには時間がかかるが、自分達も積極的に活動したい。
- ・小売商の努力も必要だが、マスコミ等もスポット的な情報発信が必要。
- ・国、東京都が国民のために、しっかり安全安心の宣言を出して欲しい。
- ・関係者の熱い思いが伝わった。販売するにあたって心して関わっていきたい。
- ・築地は消費者にとっては「産地」のようなもの。安全・安心に対する責任は重い。

問2 いわき市漁協での検査体制等や取り組みについて理解できましたか。



① よく理解できた	76.5%
② ほぼ理解できた	23.5%
③ あまり理解できなかった	0.0%

問4 風評被害を減らすために、何が必要だと思われましたか。



① 検査体制、放射性物質の正しい理解	29.6%
② 積極的な販売（消費）	15.5%
③ 生産地での取り組みのPR	35.2%
④ その他※	19.7%

※ メディアの積極的な活用、汚染水のコントロール、国・東京都の安全宣言等

## 【産地の意見・要望】

- ・産地側は、身を削る思いでやっている。
- ・検査については、国のモニタリング検査の他、漁協において国よりも厳しい基準で自主検査を行っており、安全性は確認できている。是非、築地市場で正当に評価していただきたい。

# (参考) 被災産地支援研修会の様子

【出発前】



築地市場 (バス2台)  
※ 車中 研修趣旨説明、放射性物質の基礎知識 (DVD)

【いわき市地方卸売市場小名浜市場】



【挨拶】



東京魚商業協同組合 神田 理事長



福島県漁業協同組合連合会  
野崎 代表理事会長



福島県水産事務所 岩上 所長

【視 察】



(2) - ① 小名浜港の状況 (4階展望室より)

【講 義】



(1) - ① 福島県水産試験場 藤田 部長



(1) - ② いわき市漁業協同組合  
吉田 理事



(1) - ③ いわき市水産振興室 松本 主幹



(2) - ② 漁港検査室 (外観)



(1) - ④ 小名浜機船底曳網漁業協同組合  
前田 次長



(1) - ⑤ 小名浜水産加工業協同組合  
小野 組合長



(2) - ② 漁港検査室 (内部)